

独立行政法人国立環境研究所公開シンポジウム 2009

『今そこにあるリスク - 環境リスクの真実を語ろう -』

国立環境研究所では、毎年6月の環境月間にあわせて公開シンポジウムを開催しています。今年は、東京及び京都において、「今そこにあるリスク - 環境リスクの真実を語ろう -」をテーマに、環境研究が環境リスク問題の解決にどのように貢献できるか、国立環境研究所で行っている研究の一端をご紹介します。

<日時・会場>

○東京会場

開催日時：平成21年6月6日（土）12:00～17:30

開催場所：メルパルクホール（港区芝公園2-5-20）

アクセス：JR浜松町駅より徒歩10分／都営三田線芝公園駅より徒歩2分
都営浅草線・大江戸線大門駅より徒歩4分

○京都会場

開催日時：平成20年6月13日（土）12:00～17:30

開催場所：シルクホール（京都市下京区四条通室町東入ル 京都産業会館8階）

アクセス：京都市営地下鉄烏丸線四条駅・阪急京都線烏丸駅より徒歩3分

<プログラム>（東京会場、京都会場とも共通です。）

12:00～13:00 ポスターセッション

13:00～13:10 開会挨拶 理事長 大垣 眞一郎

13:10～13:50 白石 寛明 「環境リスク研究へのいざない」

13:50～14:30 鎌迫 典久 「メダカ、ミジンコのオス・メスが化学物質で変わる!?
- 見えにくい生態リスク -」

14:30～14:45 休憩

14:45～15:25 橋本 俊次 「環境汚染物質の測り方 - ハイテクとローテクからのアプローチ -」

15:25～15:55 新田 裕史 「私たちの健康に害があるほどに空気は汚染されているか？」

15:55～16:15 高野 裕久 「身の回りの環境汚染はアレルギー疾患を悪化させる？」

16:15～16:25 閉会挨拶

16:30～17:30 ポスターセッション

（内容は12:00からのポスターセッションと同じですが、この回には講演者も参加します。）

ポスターセッション 発表タイトル

1. 母乳からのダイオキシンが骨形成を阻害する - ネズミでの例 -
2. ディーゼル排気中ナノ粒子の吸入実験を考える
3. アスベスト含有廃棄物を安全・安心に処理するために - 無害化の確認試験法の開発 -
4. 土壌環境中における鉛の動態とその拡散防止 - 鉛弾由来の鉛の動態について -
5. 化学物質が心に及ぼす影響をいかに評価するか? - 神経毒性試験の有用性 -
6. 細胞培養系を用いたアレルギー反応に対する化学物質の影響評価
7. 大気汚染物質と循環器疾患 - 微小粒子状物質の影響 -
8. 北京の大気汚染と肺機能への影響
9. 家庭製品中の化学物質と室内環境への影響 - 難燃添加剤に着目して -
10. 東京湾の底棲魚介類の種組成と生息量の変化 - 現状の把握と原因の追究 -
11. 小笠原の川にすむ貴重な生き物たち - 甲殻類や水生昆虫について -
12. メコン河の流域環境 - 人間活動による水質の変化 -
13. 日本における野鳥のウェストナイルウイルス感染リスク
14. 海洋から大気中に放出される植物由来の微量気体を調べる - オゾン層を破壊する気体は海洋からも? -
15. 湖の健康診断 - 底泥の安定同位体分析から栄養状態を探る -
16. レーザーレーダーで黄砂や大気汚染粒子を観る
17. 地球全体の温室効果ガスを測る - 衛星『いぶき (GOSAT)』の初期観測状況 -